

第 3 号に寄せて

吉見孝夫

『イソップ資料』第3号をお届けします。「創刊のことば」（創刊号）で「三号雑誌を目指したい」と書きました。その目標はどうやら達成できることになります。当初は年2回の刊行を目論んでおりましたが、能力不足のうえに雑用が重なり、第2号、第3号と年度内に間に合わせるのがやっとという状態です。

元日に「相棒」というテレビ番組を見ました。人気の刑事物シリーズです。この日のは『不思議の国のアリス』の挿絵が謎解きの重要な手掛かりとなるのですが、水谷豊演ずる主人公杉下右京が「このテニエルの描いた『不思議の国のアリス』の挿絵が……」と言うのを耳にしたとき、思わず「オー！」と声を上げ、家の者に不審がられました。原書 *Alice in Wonderland* の挿絵は確かにテニエル (John Tenniel) という画家の手になります。視聴者のほとんどは彼の名など知らないでしょうが、この台詞はいかにも右京の衝学を印象付けています。こういうドラマの本筋とは無関係のところで手を抜かないのが、この番組の魅力の一つでしょう。

ところで、それとイソップと何のつながりがあるのか。テニエルがまだ名を成していない頃手がけた仕事がトマス・ジェームス (Thomas James) の *Aesop's Fables* の挿絵です。本号5、6ページ下段にあるのがその一部です。この英書は渡部温が『通俗伊蘇普物語』と題して訳し、明治期のベストセラーとなっています。これに付された河鍋暁斎らが描いた挿絵にも原書の絵に基づいたものがあります。そんな次第で、テニエルの名が聞かれたときに図らずも反応してしまいました。

第2号に載せた「ロドリゲス『日本大文典』中のイソップ寓話からの引用—『エソボのハブラス』『伊曾保物語』との対比—」には脱漏がありました。ご指摘いただいたのは遠藤潤一氏です。氏の『邦訳二種伊曾保物語の原典的研究 正編』を参照していれば防げた初歩的なミスでした。この号に拙論の改訂版を載せました。叱責されてもやむを得ないところです。しかしご教示の文面に責める言葉はなく、剩え貴重な資料までお贈りいただきました。お詫びと感謝を申しあげなければなりません。

第2号刊行以後も何人かの方々から種々のご教示をいただきました。お礼申しあげます。ここに内容を具体的に述べることは控えますが、今後の調査に活かしたいと存じます。